

報 告

## 近畿病院図書室協議会第119回研修会（事例・研究報告会）

研修部

日 時：2009年3月13日（金）10:00～12:00

場 所：ペアーレ神戸

プログラム：

1. 『図書室だより』のweb配信を開始して  
演者：浜田美智代（社会保険神戸中央病院）  
共同演者：林 伴子
2. 看護専門学校及び病院図書室の利用状況について  
演者：川野真樹（京都第二赤十字病院）
3. 当院図書室の現状と課題  
演者：石川尚子（財団法人 住友病院）
4. 病院図書室におけるサービス（情報提供）の専門性を探る—医学図書館・公共図書館・病院図書室の役割—  
演者：山室真知子（元京都南病院）  
共同演者：寺澤裕子、中村友紀

参加者数：44名

（購読会員4名、会員外1名を含む）

今回の事例・研究報告会には4題の演題が寄せられた。そのうちの1題が研究助成制度を利用した研究報告で、それ以外はそれぞれの施設での担当者の経験をもとにした事例報告であった。なお、演者の都合で事前に案内したプログラムとは異なる発表順で進行した。

第1席は図書館の広報に関する事例である。当協議会参加機関のほとんどが何らかの広報活動を行っているが、利用者の反響をじかに受け取る機会はなかなか持てない。今回の発表では、『図書室だより』のweb配信を機会にアンケートを実施した結果が報告された。担当者にとっ

ては耳の痛い意見もあったが、これを機に図書室を利用してみようという意見もみられ、図書館業務の一端を知ってもらうことができたと評価できる。

第2席は看護専門学校での勤務経験を持つ演者による、学校ならびに病院図書室の利用状況報告であった。看護分野においては研究活動が活発化してきているだけでなく、医療や看護の進歩に伴って専門知識や技術が求められてきている。看護分野での図書館利用は未開拓な部分も多いが、それを支援できる図書館の存在意義は大きい。厳しい勤務状況ではあるが、看護学校だけでなく病院図書館での利用支援活動についても、われわれ担当者はサービス内容を充実させる必要性を感じた。

第3席では、担当者交代時の業務の引き継ぎを中心とした、業務の流れと問題点が紹介された。担当者の引き継ぎは、残された業務マニュアル、文書などを手がかりに、実際の業務を共同で行うことなくなされていることが多い。5カ月間の引き継ぎ期間があったとしても、年間業務の全てがわかるわけでもなく、受け継ぐ立場の難しさを改めて考えさせられた。個々の図書館によって事情は異なるが、基本的な業務の引き継ぎポイントの整備などは協議会というネットワークを生かした取り組みができないものかと考える。

第4席は研究班最終年の発表である。これまでも病院図書館業務の専門性、図書館員の専門性について報告があったが、今回は各種図書館での専門性が論じられる中で、「病院図書館の特

殊性、専門性とは？」という問いに、患者・家族の身近にあって、必要とされる医学情報の提供サービスこそが病院図書館の専門性を生かした役割であるとの結論であった。病院図書館担当者への病院側の認識には単なる事務職との認識に終始していることが多く、担当者の配置転換などにその一端を知ることができる。

しかし、医学・看護などの専門的な情報の整備と提供、また、患者・家族への医学医療情報の提供には専門知識がある方が望ましいことはいうまでもない。

今後も今回の研究報告を参考に、病院図書館

員としての専門性を考えていきたい。

今回の事例・研究報告には病院図書館員ならではの問題が定義されていたように思う。

専門知識を要求され、利用者への教育が求められる反面、専門職としての認識の乏しい職場環境に置かれている担当者が多い。院内での存在をアピールするには個々に取り組むしかないが、状況を分析し、何を求められ、何ができるかを実現できるように今後も努力を重ねていきたい。

(文責：社会保険神戸中央病院／林 伴子)